

## 要約

本研究は、結婚を何らかのきっかけに国境を越えて移動する女性、「結婚移民」の女性たちの「主体性」を考察することを目的としている。これまで長年焦点が当たってこなかった、結婚移民の女性たちの「主体性」を、中国とベトナムの女性の事例を描き出すことによって、明らかにしようとするものである。また、本研究では分析概念として、女性が「主体的」であるかどうかを考察している。主体的であるかどうかについては、「エイジェンシー」という概念を使用し分析を試みる。その定義を本研究では、山根（2010）と世界銀行（2012）の定義に依拠しながら、「個人が構造を理解しながら、いかにその中で本人の望む結果をもたらすべく、物事を能動的に選択している能力」とする。

中国の事例は、学歴の高い女性が、夫の日本留学に「随伴する」ことによって直面する、ジェンダーバランスの変化に、様々な資源を動員しながら、乗り越えようと努力する姿が描かれている。中国は、男女平等意識や就労の意識も高く、女性の社会進出も進んでいるため、女性たちは夫に随伴することによって、当然、自分たちのキャリアアップすることを期待している。しかし現実的には、日本の労働市場において外国人がキャリアを積むことの難しさや、ジェンダーによって大きく規定されている雇用慣行など、彼女たちがキャリアを追及することは難しい。そのうえ、彼女たちがキャリアも仕事もなくなったときに、夫婦間のパワーバランスがまったく異なり、夫が女性たちに対して権威的な態度をとるようになる。自分たちの意思に反したことが、移動の結果次々と起こる中、それでも彼女たちは、こうした構造の中でうまく生き延びるため、主体的に様々な戦略を立てて行動する。日本でのキャリアを少しでも達成しようとする人たちは、中国本国の親族あるいは両親を資源としていた。男女平等感やキャリア志向の強い親の介入で、夫が妻の日本でのキャリア形成を認めるようになったケースや、そもそも最初から日本での教育を受けることを約束させて移動した人さえいた。ただし多くは、キャリアの中断、あるいは社会的下降移動を経験することによる、精神的な不安定さを解消するために、教会や同国人同士のネットワークを利用するケースが多い。また、中には同国人同士のネットワークを利用して、男性のジェンダー意識を変えさせようとする人さえいた。多くの女性たちは移動前に抱いていたキャリアが思い通りに日本では達成できないという、構造的な不利益に直面する。しかし、それを理解すると少しでも自分の希望を達成すべく、様々な資源を動員していることが明らかになったといえるだろう。

ベトナムの事例から明らかになったのは、ベトナムの農村社会が持つ、ジェンダーによる不平等感が女性の結婚移民を促進していた一面があったことだ。若い未婚の女性は、国家が行う男女平等政策にも関わらず、家庭内での地位は低く、また雇用機会にも恵まれていない。彼女たちが自分たちの家族の中での位置づけを変えようとするには、農村を出て、工業団地で働くか、あるいは外国人の夫と結婚して海外で生活し、送金をするしか手段がない。ベトナムの社会の構造的なジェンダー関係を十分理解したうえで、彼女たちは生存と社会的地位の向上を目指して、選択的に結婚によって移民をするを選んでいる。実際に「送金」という行為を通して、女性たちは家族内での発言を強くし、中にはその村社会全体での「男児選好」概念さえ変えてしまう場合がある。

こうした主体的な選択は、移住後の結婚生活の中でも行われている。台湾に行った女性

たちの中には、夫の家族からの夫婦に対しての介入を経験する人もいるが、こうした時に、自分たちでの逃避をする戦略を身に着ける場合もあった。また、日本に来た結婚移民の多くは、日本で生活をしていくうえで就労をすることになるが、就労により収入を得ることで、お金の使い方の自由度を確保し、必要なときに本国への送金をし、なおかつ社会との接点を保持することで、夫からのある程度の自立を果たしている。彼女たちの夫も、決してベトナム社会のジェンダー的価値観と無縁な人たちではない。実際に夫たちは、女性たちが仕事で忙しかったり、あるいは女性だけがその世帯の収入源であったりした場合でも、料理をしないというケースがほとんどだった。しかしそれでも彼女たちは、夫との円滑な生活のために、必要以上の争いを避け、自分たちが生活しやすいよう、夫を立てながら夫婦関係を保っていた。彼女たちは、日本に在住しながらもベトナム的価値を持つ家族、という構造の中で生活し、それをきちんと解釈しつつ、送金をしたり、あるいは将来に備えるために送金をコントロールして貯金をしたり、自分たちの生活が安定するように、能動的に選択を重ねているのである。彼女たちは、出発、定住の各場面において、自分たちなりに構造を判断し、自分たちが暮らしやすいよう、物事を判断しているのだ。

結婚移民は、まだまだ女性の「主体性」とはかかわりないものとの認識をされる場合もあり、特にベトナムから台湾への結婚移民のように、ブローカーが介在する移動の場合には、女性の主体性よりは、その生活の悲惨さや、あるいは人身売買としての側面がクローズアップされて研究される場合も多いだろう。そしてそれは一面として事実である場合もある。結婚移民の女性たちが採った行為が、農村社会などミクロの社会的構造や、あるいはグローバル化といった大きな世界の構造、あるいは伝統的社会規範、あるいは移動した社会のジェンダー構造などに影響を受けていないというわけではない。どちらかと言えば、結婚移民はその人自身が高学歴であろうとそうでなかろうと、送り出し国や受入れ国でのジェンダー構造によって、大きく規定されることが多い。ただし中国とベトナムの事例から明らかにしたかったことは、こうした構造によって規定された行為があったとしても、それは完全な構造の犠牲者というわけではなく、その構造を自分なりに理解し、解釈しながら、自分で資源を活用しながら、自分の生活を望むべき方向に持っていこうと、行為者は日々の生活の中で実践しているということである。そして実際にこうした女性の主体的な行為の積み重ねが、送り出し国、受入れ国のジェンダー構造を少しずつでも変化させる可能性さえ持っている。

本研究は、結婚移民のすべてを代弁できるわけではない。しかし彼女たちの持つ、主体性を明らかにすることによって、今後結婚移民が、ほかの移民と同様、送り出し社会にも受け入れ社会にも、ある一定の役割を果たしていける可能性があることを示すことができたと考える。

## Summary

This study attempts to analyze agency of marriage migrant women, who come to Japan. In order to analyze marriage migrants' agency, this study takes case studies from China as well as Vietnam, where gender equality is considered as one of the fundamentals of the communist regime. Agency is defined by the World Bank, as "individual's ability to make effective choices and to transform those choices into desired outcomes." This study basically takes this definition as an analytical concept, but this study also puts highlight on the individual's awareness towards structural constrains.

Chinese cases illustrate highly educated women's efforts to tackle with their difficulties which are caused by their downward mobility in Japan. They tried to pursue their career by accompanying their husbands' study in Japan, as they are from the society where gender equality and women's labor participation are considered as social norm. However, due to the limited needs for non-Japanese experts as well as gender inequality in the Japanese labor market, they normally had to give up their pursuing career. In addition, many of them experienced their husbands' authoritarian attitude due to the changes in power balance in the household.

Faced with the sense of loss as a consequence of downward mobility, they tried to make their situation desirable by utilizing various social resources. Although they all knew their surrounding social structure was immutable, still they made choices and decisions to bring them favorable outcomes with such resources. Such acts they made can be seen as their exercising agency.

From Vietnamese cases, this study found that the sense of gender inequality can be a driving force for young women to be a marriage migrant. The status of the young unmarried women in their household in rural Vietnam is still low, and they have a limited chance of being employed. There are only two ways to change their status in the household. One is to find jobs in the factories in Free Trade Zone in order to remit. The other is to find foreign husbands to live abroad and to remit. Thus, they choose with their own will to get married with Korean or Taiwanese men, in order to improve their status in their household. Their remittance to their natal family makes their bargaining power strong. In some cases, especially in the villages where quite a few daughters decide to marry men in other countries, girl's social value improves and son preference in such villages has become less important.

This study confirms that Vietnamese marriage migrants in Japan also have made decision making with their own will. As they often get a job, and make their own living, this brings them large bargaining power in the household. Their husbands are normally the men with Vietnamese traditional gender idea. With their economic autonomy, however, they are negotiating well with their husband to manage their household, and make their life more secure and desirable.

In general, marriage migrants are still considered as the women without their own

decision. Especially, in the case of marriage migrants with commercial match makers, the tragic outcomes or more trafficking like dimensions are often focused. In one side all these are true. The decisions they made to be a marriage migrant are obviously influenced by various structural factors, including the traditional gender relations in rural area or their sending countries, globalization, and social norms.

However, the cases from China and Vietnam clearly show that marriage migrants are not necessarily the victims of social structure but the actors who are making effective decision in everyday life with understanding their social constrain, in order to transform those choices into desired outcomes. Moreover, accumulation of such daily practice has even potential to change social structure gradually.